

小池 宏明 牧師

今日は、有名な種蒔きのたとえである。イエス様が語った「たとえ」とその意味を確認しよう。

イエス様は、ご自分の近くにいる人たち、12 弟子も含めて、このたとえの意味を説き明かした。

13 章 18 節「ですから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。」種とは御ことばのこと。イエス様が御ことばの種を蒔く人。そして種が落ちた場所は、御ことばを聞く人々の心の状態を表わしている。

19 節「だれでも御国のことばを聞いて悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪います。道端に蒔かれたものとは、このような人のことです。」御ことばを聞いても、端から拒否して反発するならば、悪い者が来て奪っていくという。悪い者（マルコの福音書では「サタン」ルカの福音書では「悪魔」）は人々が主の御声を聴かないように、いつも狙っている。

20、21 節「また岩地に蒔かれたものとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。しかし自分の中に根がなく、しばらく続くだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまづいてしまいます。」御ことばを聞いて喜んで受け入れても、根がしっかりしないと困難や迫害に遭うとすぐにつまづいて、去って行ってしまふ。

22 節「茨の中に蒔かれたものとは、みことばを聞くが、この世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。」御ことばを聞いても、この世の思い煩いや富の惑わし、そして多くの欲望の中に身をおいたままにするならば、御ことばの種を塞いで、成長していかない。

23 節「良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて悟る人のことです。本当に実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」御ことばを聞いて、悟る人は、成長して多くの実を結ぶという。同じ種蒔きのたとえが語られているルカの福音書では、「8:15 …良い地に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らは立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。」とある。みことばを聞いて受け入れて、しっかり守って、忍耐して実を結ぶ者は、多くの実りを受け取るのだ。

「私の心はどんな状態なのか？」実は、種蒔きのたとえで、強調されていることは、「あなたはどのタイプですか？」という診断ではなくて、「御ことばをよく聴くこと」なのだ。悟るまで、すなわち、よく分かって、よく理解するまで聴くこと。13 章 9 節では、イエス様が印象的な表現で命じている。「耳のある者は聴きなさい」これは、主のことばをよく聴き取るように、というお勧めである。

弟子たちが、そうであったように（13:10）よく御ことばを聴くために、ますます主イエス様に近づいていこう。